

青森県から北海道へ

氏名 山崎 剛史

青森県佐井村市立佐井小学校 → 北海道北斗市立上磯小学校
(期間：令和4年4月1日～令和6年3月31日)

1 青森県の教育

○ 令和4年度 青森県教育委員会の「施策の柱」

- 1 「次代を担う子どもたちに求められる資質・能力の育成」
基礎的・基本的な知識・能力を確実に習得させ、確かな学力の向上を図るため、とりわけ、グローバルな視野や情報活用能力など、新しい時代に求められる資質・能力の育成に取り組むとともに、防災教育の推進を図る。
- 2 「地域で活躍する人財の育成及び県内定着の促進」
子どもたちのふるさとの理解を深め、誇りや愛着心を醸成するとともに、将来の社会や産業を担う人財及び地域で活躍する人財の育成を図り、子どもたちの将来の県内定着に向けた取組を推進する。
また、地域社会全体で子どもを育む仕組みづくりに取り組むほか、特別支援学校生徒の社会的・職業的自立を促進する。
- 3 「子どもを守り支える安全・安心な教育環境の整備」
教員が子どもに向き合う時間を確保し、きめ細かな指導を行えるよう、小学校の少人数学級編成や小・中学校への外部人材・外部専門家の配置・活用等の拡充を行うとともに、特別な教育的ニーズのある子どもへの支援体制の充実を図る。
- 4 「スポーツの振興と文化財の保存・活用」
幼少期からの体力向上、肥満防止、運動不足解消に向けた取組等を進めるとともに、世界文化遺産に登録された三内丸山遺跡を始めとする縄文遺跡の普遍的価値を次世代に継承するための取組を行う。

(具体的施策の一部紹介)

- ・青森から世界へ向かってチャレンジするグローバル人材育成事業
- ・持続可能な地域づくり「あおもり創造学」プロジェクト事業
- ・あおもりっ子育みプラン21事業
- ・「スポーツでみんなを元気に」健康力アップ事業

2 学校や地域の特色ある教育活動

○ 経営方針

- ・「全ての教育活動は、46名一人一人の子供の成長を追求するために行う」、そして、「佐井小だからできること」「佐井小にしかできないこと」（少人数・小規模のよさを生かした指導）を大切にした教育活動を掲げている。

(重点的な取組)

- ・複式学習 (ガイド学習) ・縦割り班活動 ・赤十字活動の推進
- ・歯科保健指導の推進

3 私が取り組んできた実践

派遣元校では、主に高学年担任（単式学級、複式学級）と生徒指導主任を担当してきた。在籍中は、下北社会科教育研究会の一員として、全国小学校社会科研究協議会研究大会や青森県小学校社会科教育研究大会の実践発表者として携わってきた。

○ 全国小学校社会科研究協議会研究大会、青森県小学校社会科教育研究大会での実践発表

- ・下北社会科教育研究会の研究主題である「主体的に学ぶ力や表現力を高め、自らの考えを広げ深める社会科教育」に迫る手立てとして、対話的な学習活動の設定と指導法の工夫が有効であると考え、学習活動を焦点化し、思考の視覚化と思考過程の共有をするために、思考ツールを活用した学習内容の工夫をした。このことによって、児童同士で意欲的に考えを交流をしたり、共有した考えを根拠にしながら積極的に発表したりする児童が増えた。また、「自分の言葉で学習のまとめや振り返りをする」という活動にもつなげることができた。



○ ガイド学習の工夫

- ・国語科と算教科において、複式学級でのガイド学習に取り組んだ。児童に学習の進め方を提示し、間接指導の場面ではガイド役の児童を中心に児童同士で学習を進めた。このことによって、対話をもとに考えを深め合ったり、学び合いを充実させたりするなど、考えたことや判断したことを自ら表現できる児童が増えてきた。また、ガイド役の児童を輪番制にすることで、全員が役割を理解し、助け合いながら学習を進めることができた。

